

高齢者身体シルエットの若年との比較（予報）

松山容子 ○渡邊敬子

（大妻女大）

目的 衣服が体に合わないという不都合を改善するためには、身体各部形態の把握とともに年齢変化に関する資料が必要である。しかしデータは乏しく、特に高齢者のものはほとんど見あたらない。本研究では日本人の3次元人体形状計測データを用いて、高齢男女の側面シルエットが若年とどう異なるのか、また、年齢変化の様相は男女で異なるのかについて検討した。

方法 原資料は（社）人間生活工学研究センターによる画像データで、被験者は24～29歳、60歳代、80歳代の男女各50名、計300名である。3次元解析ソフト3D-Rugleを用いて顎下から足底まで9mmごとの水平断面と体表に付した基準点の3次元座標値を採取した。これらから個人の側面シルエットを構成し、シルエットの形を特徴づけられる最凸点、最凹点など21点の座標値を算出した。これらの点の高さ、部分の厚み、シルエットのなす角度について比較検討した。

結果 高齢者のシルエットの特徴として、男女共通に見られたのは、①頸椎高に対するプロポーションで、頸窩点、乳頭点、背最突点の高さが低いこと、②体幹上部が前傾していること、③腹部の突出が顕著であること、④60・80歳の間で耳珠点を通る鉛直線が踝前点よりも前方に位置するようになることなどである。男女で異なるのは、後ウエスト部の前湾の減少および膝の屈曲傾向が、いずれも女性では60歳以前に起こり、男性では60・80歳の間にかかることである。また、腹部最凸点の位置は、男性では高齢になると高くなるが、女性ではこのような変化は見られなかった。